

## 病害虫発生予報 第3号

(向こう1か月間の発生予報)

### I 総括表

作物名	病害虫名	地域	発生量	発生時期	摘要
麦	赤かび病	全域	並	並	
	さび病	全域	並	並	
	うどんこ病	全域	並~やや多	やや早	
水稻	葉いもち	全域	並~やや多	並	
	縞葉枯病・黒条萎縮病 (媒介虫: ヒメトビウンカ)	全域	並~やや多	並	
	ツマグロヨコバイ第1回成虫 (黄萎病)	全域	並	並	
	ニカメイチュウ第1世代幼虫	全域	並	並	
	イナゴ	全域	並	並	
	イネドロオイムシ	全域	並	並	
	イネミズゾウムシ	全域	並~やや多	並	
りんご	黒星病	全域	やや少		
	斑点落葉病	全域	並	並	
	輪紋病	全域	並~やや多	並	
	炭疽病	全域	並~やや多	並	
	腐らん病	全域	やや多		
	ナシヒメシンクイ	全域	並	並	
	モモシンクイガ	全域	並	並	
	リンゴハダニ	全域	並	並	
	ナミハダニ	全域	並	並	
	リンゴカクモンハマキ (ハマキムシ類)	全域	並	並	
	キンモンホソガ	全域	並~やや多	並	
	スモモヒメシンクイ	全域	並	並	
なし	黒斑病	全域	並		
	黒星病	全域	やや多		
	輪紋病	全域	並	並	
	リンゴハダニ	全域	並	並	
	ナミハダニ	全域	並	並	
	アブラムシ類	全域	並	並	

	リンゴカクモンハマキ	全域	並	並	
	シンクイムシ類	全域	並	並	
	カメムシ類	全域	やや多	並	
もも (ネクタリンを除く)	黒星病	全域	並	並	
	せん孔細菌病	全域	並		
	灰星病	全域	並	並	
	モモハモグリガ	全域	並	並	
	ハダニ類	全域	並	並	
	シンクイムシ類 (モモシンクイガ)	全域	並	並	
	ハマキムシ類	全域	並	並	
ぶどう	カメムシ類	全域	並	並	
	灰色かび病	全域	並	並	
	べと病	全域	並~やや多	並	
	チャノキイロアザミウマ	全域	並	並	
トマト	灰色かび病	全域	並	並	
	輪紋病	全域	並~やや多	並	
きゅうり	べと病	全域	並	並	
	うどんこ病	全域	並	並	
	褐斑病	全域	並	並	
アブラナ科野菜	黒斑細菌病	全域	並	並	
	コナガ	全域	並	並	
はくさい	ピシウム腐敗病	全域	並	並	
	軟腐病	全域	並	並	
	べと病	全域	並	並	
レタス	べと病・菌核病・ 灰色かび病・すそ枯病	全域	並	並	
	斑点細菌病	全域	並	並	
	軟腐病・腐敗病	全域	並	並	
アスパラガス	茎枯病	全域	並	並	
	ジュウホクビガハムシ	中山間	並	並	
野菜・花き 共通	アザミウマ類	全域	並~やや多	並	
	アブラムシ類	全域	並	並	
	ハモグリバエ類	全域	並	並	
	オオタバコガ	全域	並	並	
	ヨトウガ類	全域	並~やや多	並	
	ハダニ類	全域	並~やや多	並	

## II 向こう1か月の気象予報（長野気象台 6月13日発表）

### 1 予想される向こう1か月の天候（6月15日～7月14日）

平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

### 2 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気温	40	40	20
降水量	30	30	40
日照時間	30	30	40

## III 麦

### 1 赤かび病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- 6月上旬の巡回調査ほ場では発生は確認されていない。
  - 気象要因（+）向こう1ヶ月の気象は平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されている。
- (3) 防除上の留意点
- 収穫期に病徴が発現することもあるので、収穫までは場巡回を行い発生の確認を行う。
  - 発生ほ場における収穫物の扱いについては、関係者と協議する。

### 2 さび病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- 6月上旬調査でコムギ赤さび病の発生は一部のほ場で目立つものの、全般には平年に比べて少なかった。
  - 気象要因（+）向こう1ヶ月の気象は平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されている。
- (3) 防除上の留意点
- 赤さび病については、発病ほ場での茎葉等の収穫物残さや、収穫漏れの麦粒（こぼれ麦）から発芽した株は次年作への伝染源となるので適正に処分する。

### 3 うどんこ病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多 発生時期：やや早
- (2) 予報の根拠
- 6月上旬の巡回調査では平年に比べてやや発生が多かった。
- (3) 防除上の留意点
- 曇雨天が続く（湿度が高い）と発生が多くなる。また、遅播き、窒素肥料の過剰、追肥時期の遅れ等で軟弱過繁茂になると発生しやすい。

## IV 水稻

### 1 葉いもち

- (1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- 葉いもち感染予測モデル「BLASTAM」によると、6月1～10日の期間では感染好適条件の出現頻度は比較的少ない。
  - 気象要因（+）向こう1ヶ月の気象は平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されている。
  - 一部の地域で、苗いもちの発生が確認されている。
- (3) 防除上の留意点
- 補植用苗は、伝染源となることが多いため、早期に除去する。
  - 葉いもちの発生に注意し、発生が認められた場合は、直ちに防除を行う。

### 2 縞葉枯病・黒条萎縮病（媒介虫：ヒメトビウンカ）

- (1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- 昨年、東信地域の一部で縞葉枯病の発生が確認された。
  - 昨年、気温が高めに推移し、ヒメトビウンカが増殖しやすい気象条件であった。
- (3) 防除上の留意点
- 麦作地帯では登熟期以降、水田への飛び込みが増加するので注意する。

### 3 黄萎病（媒介虫：ツマグロヨコバイ）

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- 近年、生育期における発生は、極めて少ない状況が継続している。
  - 前年のツマグロヨコバイの発生はやや少なかった。

### 4 ニカメイチュウ第1世代

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- 東信地方の予察灯で誘殺が確認されており、近年は徐々に被害が増加しているとみられる。
  - 上田の予察灯調査で5月4半旬、須坂市八重森の予察灯調査で5月5半旬から誘殺を確認している。
- (3) 防除上の留意点
- 第1世代幼虫の防除適期は発蛾最盛期の10日～15日後で、北信では通常6月下旬頃である。

### 5 イナゴ

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- 前年の成虫発生量は、平年に比べてやや少なく越冬卵量もやや少ないと思われる。

る。

### (3) 防除上の留意点

- ① 若齢期の防除効果が高いので、発生が多い場合には7月上旬頃までに防除を行う。

## 6 イネドロオウムシ

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ① 6月上旬の巡回ほ場の調査では、成虫の確認は1ほ場で1頭のみであった。成虫による食害も確認されなかった。
- ② 気象要因 向こう1ヶ月の降水量は平年に比べて多いと予想されており、イネドロオウムシの増殖に適した気象条件と推測される。

(3) 防除上の留意点

- ① 苗箱施薬をしても、発生が多い場合には、本田防除を実施する。
- ② カーバメート薬剤に対する抵抗性が発達している地域では、薬剤選定に留意する。
- ③ 本田における茎葉散布剤の防除適期は、幼虫の加害初期（幼虫による葉の食害が見え始める頃）である。

## 7 イネミズゾウムシ

(1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ① 越冬世代成虫の水田侵入時期はほぼ平年並みと推測される。
- ② 6月上旬の巡回ほ場調査では、成虫の発生の多いほ場がみられた。

(3) 防除上の留意点

- ① 苗箱施薬をしても発生が多い場合は、本田防除を実施する。
- ② 要防除密度は、成苗で株当り1頭、中苗で0.7頭、稚苗で0.4頭である。
- ② 被害の早期発見に努め、発生を認めたら、多発する前に「県防除基準」により薬剤を選択して防除を行う。

# V りんご

## 1 黒星病

(1) 予報の内容 発生量：**やや少**

(2) 予報の根拠

- ① 巡回調査では、各地の発生が少なかった。

(3) 防除上の留意点

- ① 散布間隔をあけすぎず、定期的に薬剤散布を行う。

## 2 斑点落葉病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ① 巡回調査では、6月上旬まで発生がみられていない。

(3) 防除上の留意点

- ① 通常、6月中下旬頃に発生する。今後降雨が多く、多発が予想される場合は

「県防除基準」に従い薬剤を選択して防除する。

## 3 輪紋病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ① 越冬伝染源量は「平年並」と推測される。
- ② 気象要因 (+) 向こう1ヶ月の降水量は、平年と同様に多いと予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ① 散布間隔をあけすぎず、定期的に薬剤散布を行う。

## 4 炭疽病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ① 越冬伝染源量は「平年並」と推測される。
- ② 気象要因 (+) 向こう1ヶ月の降水量は、平年と同様に多いと予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ① 散布間隔をあけすぎず、定期的に薬剤散布を行う。

## 5 腐らん病

(1) 予報の内容 発生量：**やや多**

(2) 予報の根拠

- ① 巡回調査で枝腐らん、胴腐らんが多くみられている。

(3) 防除上の留意点

- ① 定期的に園内を点検し、病斑の削り取りと薬剤塗布を行う。また、枝腐らんを早期に切除し園外に持ち出し処分する。

## 6 ナシヒメシクイ

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ① 巡回調査では、新梢先端部の「心折れ」症状はみられなかった。

(3) 防除上の留意点

- ① 第1世代成虫は6月上中旬から7月上旬に発生するので注意する。
- ② 有袋栽培でも加害されることがある。「県防除基準」に従い薬剤を選択して防除を行う。

## 7 モモシクイガ

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ① 越冬幼虫量は、平年並であると推測される。

(3) 防除上の留意点

- ① 平年では、越冬世代成虫は6月上旬頃から発生し、7月上旬頃盛期となる。
- ② 発生園では「県防除基準」に従い薬剤を選択し、6月中下旬頃から防除を行う。

## 8 リンゴハダニ

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ① 6月上旬の巡回調査で一部のほ場で発生がみられた。
- ② 気象要因（一）向こう1ヶ月の降水量は、平年と同様に多いと予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ① 防除基準に従い薬剤を選択し、散布ムラが生じないように防除する。

## 9 ナミハダニ

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ① 6月上旬の巡回調査で一部のほ場で発生がみられた。
- ② 気象要因（一）向こう1ヶ月の降水量は、平年と同様に多いと予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ① 「県防除基準」に従い薬剤を選択し、散布ムラが生じないように防除する。

## 10 リンゴコカクモンハマキ（ハマキムシ類）

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ① 巡回調査のハマキムシ類の発生量はほぼ平年並であった。

(3) 防除上の留意点

- ① 「県防除基準」に従い薬剤を選択して、第1世代幼虫が出揃う6月中旬～下旬に防除する。

## 11 キンモンホソガ

(1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ① 越冬世代成虫のフェロモントラップへの誘殺が多い地区があった。
- ② 果そう葉への寄生は平年並みである。

(3) 防除上の留意点

- ① 成虫発生初期に食入防止効果のある薬剤を散布する。
- ② 今後のフェロモントラップの誘殺状況をよく確認する。

## 12 スモモヒメシンクイ

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ① 越冬世代成虫のフェロモントラップへの誘殺は平年並であった。

(3) 防除上の留意点

- ① 平年の第1世代成虫は6月下旬から7月上旬に発生するので、適期防除を心がける。
- ② シンクイムシ類で登録のある薬剤を選択し、丁寧に散布する。多発園では散布間隔を10日間に縮める。

## VI なし

### 1 黒斑病

(1) 予報の内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

- ① 6月上旬までの発生は少ない。
  - ② 気象要因（一）向こう1ヶ月の降水量は、平年と同様に多いと予想されている。
- (3) 防除上の留意点
- ① 地域等の防除暦に沿って降雨前の予防散布を実行する。

### 2 黒星病

(1) 予報の内容 発生量：やや多

(2) 予報の根拠

- ① 巡回調査ほの一部で発病が認められている。
  - ② 気象要因（一）向こう1ヶ月の降水量は、平年と同様に多いと予想されている。
- (3) 防除上の留意点
- ① 「幸水」は果実肥大期に感受性が再び高まり、感染しやすくなる。
  - ② 地域等の防除暦に沿って降雨前の予防散布を実行する。

### 3 輪紋病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ② 気象要因（一）向こう1ヶ月の降水量は、平年と同様に多いと予想されている。
- (3) 防除上の留意点
- ① 地域等の防除暦に沿って降雨前の予防散布を実行する。

### 4 リンゴハダニ

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ① 6月上旬まで目立った発生はなかった。
- (3) 防除上の留意点
- ① 発生状況は園地ごとに異なる。発生状況を確認し必要に応じて殺ダニ剤を散布する。
  - ② 散布ムラが無いようにする。

### 5 ナミハダニ

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ① 6月上旬までに巡回調査ほの一部で発生が認められている。
- (3) 防除上の留意点
- ① 発生状況は園地ごとに異なる。発生状況を確認し必要に応じて殺ダニ剤を散布する。
  - ② 散布ムラが無いようにする。

## 6 アブラムシ類

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

① 巡回調査では新梢でみられ全般に発生は平年並であった。

(3) 防除上の留意点

① 寄生が見られたら、必要に応じて地域等の防除暦に沿って殺虫剤を散布する。

## 7 リンゴコカクモンハマキ

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

① 越冬世代幼虫による食害は認められなかった。

② フェロモントラップの誘殺時期は平年並となった。

(3) 防除上の留意点

① 地域等の防除暦に沿って適時に殺虫剤を散布する。平年の越冬世代成虫の発生時期は5月下旬から6月中旬である。

## 8 シンクイムシ類

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

① 全般に発生は平年並である。

② ナシヒメシンクイ越冬世代成虫の誘殺ピークは平年並となった。

(3) 防除上の留意点

① 地域等の防除暦に沿って適時に殺虫剤を散布する。第1世代成虫の平年の発生時期は6月中旬頃からである。

## 9 カメムシ類

(1) 予報の内容 発生量：やや多 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

① チャバネアオカメムシの越冬場所フェロモントラップへの誘殺数はやや多い。

(3) 防除上の留意点

① 地域等の防除暦に沿って適時に殺虫剤を散布する。

## VII もも(ネクタリンを除く)

### 1 黒星病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

① 巡回調査では、発生がみられなかった。

② 近年発生がほとんどみられていない。

(3) 防除上の留意点

① 「県防除基準」に従い薬剤を選択して防除する。

### 2 せん孔細菌病

(1) 予報の内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

① 6月上旬の巡回調査で発生が多いほ場もみられたが、全体的には平年並みであった。

(3) 防除上の留意点

① 「県防除基準」に従い薬剤を選択して防除する。

② 有袋栽培では早めに袋掛けを行う。

### 3 灰星病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

① 巡回調査では、発生は認められなかった。

(3) 防除上の留意点

① いずれの品種も収穫20日前頃からの防除が重要となるので、防除基準に従い薬剤を選択して防除する。

### 4 モモハモグリガ

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

① フェロモントラップの誘殺は平年並み。

② 巡回調査では寄生葉はみられていない。

(3) 防除上の留意点

① 成虫発生初期に食入防止効果のある薬剤を必ず散布する。

### 5 ハダニ類

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

① 6月上旬調査では発生がみられていないが、平年並みの発生量と推測される。

② 気象要因(一)向こう1ヶ月の降水量は、平年と同様に多いと予想されている。

(3) 防除上の留意点

① 「県防除基準」に従い薬剤を選択し、散布ムラが生じないように防除する。

### 6 シンクイムシ類(モモシンクイガ)

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

① フェロモントラップへの越冬世代成虫の誘殺は平年並み。

(3) 防除上の留意点

① 「県防除基準」に従い薬剤を選択し、6月中下旬以降、定期的に防除する。

### 7 ハマキムシ類

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

① 巡回調査では新梢被害はみられず、ほぼ平年並の発生量と推測される。

(3) 防除上の留意点

① 「県防除基準」に従い薬剤を選択し、6月中旬頃に防除する。

### 8 カメムシ類

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
  - ① 巡回調査では、果実被害はみられなかった。
  - ② フェロモントラップ調査では、平年(過去3年)並みで推移している。
- (3) 防除上の留意点
  - ① 「県防除基準」に従い薬剤を選択し、6月中旬頃に防除する。

## Ⅷ ぶどう

### 1 灰色かび病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
  - ① 6月上旬までの巡回調査では、発生はみられなかった。
- (3) 防除上の留意点
  - ① 「県防除基準」に従い、薬剤を選択して防除する。
  - ② 薬剤の散布ムラが生じないように新梢管理を行う。落花期以降は花かす落としを励行する。

### 2 ベと病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並~やや多** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
  - ① 6月上旬までの巡回調査では、発生は認められなかった。
  - ② 気象要因 (+) 向こう1ヶ月の降水量は、平年と同様に多いと予想されている。
- (3) 防除上の留意点
  - ① 「県防除基準」に従い薬剤を選択し、散布間隔をあげないように防除する。
  - ② 薬剤の散布ムラが生じないように新梢管理を行う。

### 3 チャノキイロアザミウマ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
  - ① 6月上旬の巡回調査では、一部のほ場に被害葉がみられた程度であった。
  - ② 気象要因 (-) 向こう1ヶ月の降水量は、平年と同様に多いと予想されている。
- (3) 防除上の留意点
  - ① 平年では、6月下旬頃から発生量が多くなる。「県防除基準」に従って薬剤を選択し、防除時期が遅れないようにする。
  - ② 防除実施後、できるだけ早く袋掛けを行う。

## Ⅷ 野菜

### 1 トマト灰色かび病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

- (2) 予報の根拠
  - ① 6月上旬の巡回調査では、発生はみられなかった。
  - ② 気象要因 (+) 向こう1ヶ月の気象は平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されている。
- (3) 防除上の留意点
  - ① 発病果の除去、ハウス内の除湿など環境対策を実施する。
  - ① 「県防除基準」に従って薬剤を選択して散布する。
  - ③ くん煙剤、常温煙霧法の利用はハウス内の湿度上昇抑制に有効である。

### 2 トマト輪紋病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並~やや多** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
  - ① 6月上旬の巡回調査では、南信地域の施設栽培の一部ほ場で発生がみられた。例年、この時期から発生が急増する。
  - ② 露地栽培では、気温が高く、降水量が多いと多発する。
  - ③ 気象要因 (+) 向こう1ヶ月の気象は平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されている。
- (3) 防除上の留意点
  - ① 「県防除基準」により薬剤を選択して発病初期に防除を行う。

### 3 キュウリべと病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
  - ① 6月上旬の巡回調査では、発生はみられなかった。
  - ② 気象要因 (+) 向こう1ヶ月の気象は平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されている。
  - ③ 多湿条件で多発する。
- (3) 防除上の留意点
  - ① 発病を認めたら直ちに、「県防除基準」により薬剤を選択して防除を行う。
  - ② 下葉で発病の著しいものは摘葉する。

### 4 キュウリうどんこ病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
  - ① 6月上旬の巡回調査では、一部施設栽培ほ場で発生がみられた。
  - ② 気象要因 (+) 向こう1ヶ月の気象は平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されている。
- (3) 防除上の留意点
  - ① 発病を認めたら直ちに、「県防除基準」により薬剤を選択して防除を行う。
  - ② 下葉で発病の著しいものは摘葉する。

### 5 キュウリ褐斑病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠

- ① 6月上旬の巡回調査では、発生はみられなかった。
- ② 気象要因 (+) 向こう1ヶ月の気象は平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されている。
- (3) 防除上の留意点
  - ① 発病を認めたら直ちに、「県防除基準」により薬剤を選択して防除を行う。
  - ② 初発時の発病葉はすぐに摘葉し、処分する。
  - ③ 前年発生ほ場では、残渣や資材に病原菌が附着しているので十分注意する。
  - ④ 高温多湿条件で多発する。

## 6 アブラナ科野菜の黒斑細菌病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
  - ① 6月上旬の巡回調査では、発生はみられなかった。
  - ② 気象要因 (+) 向こう1ヶ月の気象は平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されている。
- (3) 防除上の留意点
  - ① 「県防除基準」に従って薬剤を選択して散布する。
  - ② グリーンボールは特に発生しやすいので注意する。
  - ③ 育苗時の発生に注意し、発病苗とその周辺の苗は定植に用いない。
  - ④ 発生ほ場の被害茎葉は、土壌中の病原菌密度が増加するのですき込まない。
  - ⑤ 降雨が多いと多発する。

## 7 コナガ(アブラナ科野菜)

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
  - ① 6月上旬の巡回調査では一部地域のキャベツほ場で被害がみられた。また、フェロモントラップへの誘殺状況は、一部の地域で平年に比べて誘殺数が多くなっている。
  - ② 本種は高温で発生量が減少する。
  - ③ 気象要因 向こう1ヶ月の気象は平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されている。
- (3) 防除上の留意点
  - ① 「県防除基準」に従って薬剤を選択して散布する。
  - ② 同一系統剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

## 8 ハクサイピシウム腐敗病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
  - ① 6月上旬の巡回調査では、一部ほ場で発生がみられた。
  - ② 近年発生が増加している。
  - ③ 気象要因 (+) 向こう1ヶ月の気象は平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されている。
- (3) 防除上の留意点
  - ① 高温期は軟腐病が併発しやすいので、軟腐病の防除も行う。
  - ② 「県防除基準」に従って薬剤を選択して散布する。

- ③ 降雨が多いと多発する。梅雨期に発生が多い。

## 9 ハクサイ軟腐病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
  - ① 6月上旬の巡回調査ではほ場での発生は確認されていないが、例年この時期から発生が急増する。
  - ② 気象要因 (+) 向こう1ヶ月の気象は平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されている。
- (3) 防除上の留意点
  - ① 害虫の食害痕から発病しやすいので、害虫防除をする。
  - ② 「県防除基準」に従って薬剤を選択して散布する。
  - ③ 高温多湿条件で多発する。

## 10 ハクサイべと病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
  - ① 6月上旬の巡回調査では、発生はみられなかった。
  - ② 低温多湿条件のときに発生が多い。
- (3) 防除上の留意点
  - ① 本病に感受性の高い品種の作付けは避ける。
  - ② 定植直後から定期的に予防散布を実施する。
  - ③ 「県防除基準」に従って薬剤を選択して散布する。

## 11 レタスペと病・菌核病・灰色かび病・すそ枯病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
  - ① 6月上旬の巡回調査では、発生はみられなかった。
  - ② 気象要因 (+) 向こう1ヶ月の気象は平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されている。
- (3) 防除上の留意点
  - ① 「県防除基準」に従って薬剤を選択して散布する。
  - ② いずれの病害も本葉10葉頃から、2回程度防除すると効果が高い。

## 12 レタス斑点細菌病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
  - ① 6月上旬の巡回調査では、東信地域の一部ほ場で発生がみられた。
  - ② 気象要因 (+) 向こう1ヶ月の気象は平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されている。
- (3) 防除上の留意点
  - ① 「県防除基準」に従って薬剤を選択して散布する。
  - ② 降雨が多いと多発する。

## 13 レタス軟腐病・腐敗病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ① 6月上旬の巡回調査では、発生はみられなかったが、例年、この時期から発生が急増する。
- ② 気象要因 (+) 向こう1ヶ月の気象は平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ① 「県防除基準」に従って薬剤を選択して散布する。
- ② 降雨前あるいは降雨後直ぐに薬剤を散布する。
- ③ 常発地・多発地では、排水対策を行う。
- ④ 高温多雨条件で多発する。

#### 14 アスパラガス茎枯病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ① 6月上旬の巡回調査では、発生はみられなかった。
- ② 気象要因 (+) 向こう1ヶ月の気象は平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ① 雨除けをすると、茎枯病の予防効果が高い。
- ② 防除は収穫打ち切り後、立茎完了までの期間が特に重要である。
- ③ 切り株や残さについての病原菌が伝染源となり、降雨時の泥はね等により感染するので、残さを除去し、土寄せや敷きワラ等で泥はねを防ぐ。
- ④ 病茎は早期に刈り取り、穴を掘って埋めるなどの処分をする。
- ⑤ 気温が高く、降水量が多いと多発する。

#### 15 アスパラガスのジュウシホシクビナガハムシ

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ① 6月上旬の巡回調査では発生はみられなかったが、中山間地域の一部ほ場では、発生がみられた。
- ② 気象要因 向こう1ヶ月の気象は平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ① 「県防除基準」に従って薬剤を選択して散布する。

#### 16 アザミウマ類（野菜、花き全般）

(1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ① 6月上旬の巡回調査では、中农信地域のきゅうりで発生がみられた。また、中农信地域のねぎ中信のたまねぎ、南信地域のアスパラガスで発生が目立つところがあった。
- ② 気象要因 向こう1ヶ月の気象は平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ① 育苗期又は定植時に適用のある薬剤を使用する。

- ② 発生を認めたら、多発する前に「県防除基準」により薬剤を選択して防除を行う。
- ③ アザミウマの種類によって薬剤に対する感受性が違うので、防除を実施したら効果を確認し、効果の低い場合は系統の違う剤で防除する。
- ④ ほ場周辺の雑草に寄生し発生源となるので、雑草防除等は場衛生を心がける。

#### 17 アブラムシ類（野菜、花き全般）

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ① 6月上旬の巡回調査では、中农信地域の露地栽培のトマト、中信地域のすいか、南信地域のアスパラガス等で発生がみられた。
- ② 小諸市の県発生予察ほ、塩尻市洗馬及び富士見町の地区発生予察ほで5月第5半旬に急増した。
- ③ 気象要因 向こう1ヶ月の気象は平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ① 発生を認めたら、多発する前に「県防除基準」により薬剤を選択して防除を行う。
- ② レタスヒゲナガアブラムシは、レタスの結球期前に重点防除を行う。

#### 18 ハモグリバエ類（野菜、花き全般）

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ① 6月上旬の巡回調査では、中农信地区のねぎで発生が目立つところがあった。
- ② 気象要因 向こう1ヶ月の気象は平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ① 苗床での防除を徹底する。
- ② 育苗施設では粘着トラップを設置し、成虫を捕殺する。
- ③ 「県防除基準」に従って薬剤を選択して散布する。
- ④ 収穫後は、残さの処分を徹底する。

#### 19 オオタバコガ

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ① フェロモントラップへの誘殺は中农信地域で5月第5～6半旬に急増したところがあった。
- ② 気象要因 向こう1ヶ月の気象は平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ① 「県防除基準」に従って薬剤を選択して散布する。
- ② 系統の違う薬剤を、ローテーションしながら散布する。
- ③ 結球野菜では、結球始期を中心に1週間間隔で2～3回防除を行う。



## 20 ヨトウガ類（野菜、花き全般）

(1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

① フェロモントラップによるヨトウガの誘殺調査では野菜花き試験場内（塩尻市）及び農業試験場（須坂市）では5月第4半旬以降急増した。

ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウの誘殺については、平年並みであった。

② 気象要因 向こう1ヶ月の気象は平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されている。

(3) 防除上の留意点

① 「県防除基準」に従って薬剤を選択して散布する。

## 21 ハダニ類（野菜、花き全般）

(1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

① 6月上旬の巡回調査では、南信及び北信地域のきゅうりで発生がみられた。

② 気象要因 向こう1ヶ月の気象は平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されている。

(3) 防除上の留意点

① 施設などで乾燥状態が続くと多発しやすい。

② 被害の早期発見に努め、発生を認めたら、多発する前に「県防除基準」により薬剤を選択して防除を行う。